

NHK for school 「はりきり体育ノ介」

「陸上運動く走り高とびに挑戦だ！」を見て

さぬき市立志度小学校 五年

指導者 中川 大暉

体の動かし方は、見て学べることが多い。体育の学習において、動画を撮影し、自分の動きを振り返ることや、友達と動きを見合っで、助言し合うことは効果的である。しかし、「どこを見ればよいか」という点に気付かせることが重要だと感じている。

「はりきり体育ノ介」は、動きのよさや見るべき視点が理解しやすい。アスリートの運動の様子を様々な角度から、スローモーションで、テロップを交えて見ることで、その動きのよさや見るべき視点を感じ取ることができる。WEB上には、「教材・資料」として、ポイントごとの静止画や、動き全体の連続写真が公開されている。

そこで、撮影した動画から友達と伝え合い、動きを高めていけるように、「はりきり体育ノ介」を視聴した後、ポイントをカードにまとめ、動きを振り返る時は、そのカードを参考にしながら伝え合う活動を設定した。さらに、自分の課題や達成できたことにシールを貼ることで、グループで個々の取組について伝え合い、学び合うことができるようにした。

児童は、課題を解決する視点が明確になり、アドバイスが具体的になったほか、課題となる部分をスローモーションにしたり、アップで撮影したりする等、撮影の仕方を工夫する姿が見られた。また、

友達の頑張っている点について、アドバイスカードをもとにして、「はじめの助走はいいから、スピードを落とさないで、力強く踏み切ったらいいよ」といった具体的な声かけが見られた。

走り高とび アドバイス&チャレンジカード			
	できるポイント	チャレンジ!	達成!
助走			
踏み切り トイトーン			
空中動作			
			
			

図1 アドバイスカード

〈児童の感想〉

- ・ 動画で見ると、自分はジャンプする前にスピードが落ちていました。勢いがなかったので、そこに気を付けてみると、記録が伸びました。
- ・ アドバイスカードの写真があったから、アドバイスしやすかったです。自分や友達の「達成！」の部分のシールが増えていったので、よかったです。
- ・ 友達は、足をぬくときによく引かかっています。棒の横から撮ると、よく分かったので、うれしかったです。

# NH K f o r s c h o o l

## 「歴史にドキリ マシユール・ペリー」

### 「揺れる江戸幕府」を見て

坂出市立金山小学校 六年

指導者 藤島 太一

僕は、社会科の歴史の授業で、「歴史にドキリ マシユール・ペリー」揺れる江戸幕府」という動画を見ました。この動画を見たのは、授業の終末部の十分間です。そこで、思ったことをいくつか挙げようと思います。

まず、この動画では、授業で習ったことが簡潔にまとめられており、短時間で習ったことを復習することができたので、とても便利だと思いました。(図1)

次に、教科書等には載っていない知識が得られ、自分の考えが深まった点がとても役に立ったと感じました。僕は、一八五三年にペリーが浦賀に來航した際に率いていた軍艦の数が、サスケハナ号、サラトガ号、ミシシッピ号、プリマス号の四隻だということは知っていました。しかし、翌年の一八五四年に再度ペリーが來航した際に率いていた軍艦の数が、自分が思っていた隻数と異なっていました。この動画を見て得た知識から僕は、ペリーは軍艦の数を更に増やすことで、江戸幕府に対して開国するよう、無言の圧力をかけていたのではないかと考えるきっかけにもなりました。

さらに、中身を短い動画に分けたクリップもあり、全体を見た後に、もう一度確認したい箇所を部分的に見ることもできるので、そのような点もとても便利だと思いました。(図2)

以上の三つのことから、授業内でタブレットを使い、動画を見て学習を進めたり復習したりすることは、学習の整理や課題発見につながることを実感できました。これからもタブレットを活用し、そこから知識を得たり、発想を広げたりすることを大切にしながら学習に取り組んでいきたいなと思いました。



図1 終末部に動画を見る児童の様子



図2 クリップ動画で復習する児童の様子

#### 【指導者の言葉】

G I G A スクール構想の拡充により、今やタブレット端末は文房具のような存在になりました。このような現状を踏まえ、放送学習が子どもたちの学習内容をより深めたり、より広げたりできるよう、私たち教員もその使い所を見極め、積極的に活用するスキルを習得することが急務であるように感じました。

## 第六学年 総合的な学習の時間

### 拉致問題について知ろう アニメ『めぐみ』 を見て

まんのう町立高篠小学校 六年

指導者 竹内 泰大

#### 【児童の感想】

アニメを見て、拉致された方全員を助けたいと思いました。しかし、自分だけでは不可能なことです。だから、日本全国の人が協力して、一人でも多くの方を救出できることを願います。また、強制的に自由を奪い、人を拉致する国は、「なぜ、そんなにも酷いことをしないとイケないのだろうか」、「どうしたいのだろうか」と思いました。

拉致されて日本に帰って来ることができない方が、めぐみさんを含めて多くいるそうです。親族の方々が、悲しみの心で溢れているだろうと考えると、拉致問題は本当に残酷なことだと思いました。

拉致被害者の状況についての真実が分からない中、被害者の家族が救出に向けて頑張っている姿を見ると、本当に酷いことだと思いました。拉致した国はどう思っているのかを聞いてみたいし、日本人の気持ちを分かっただけでほしいと思いました。

拉致は、どのようなことがあっても絶対にしてはいけないことです。その理由は、一人の人生を奪う行為だからです。一人一人の人権を尊重すれ

ば、このようなことは起こらないと思います。

拉致された人は、ただ普通の生活をしているだけなのにさらわれてしまい、今までどおりの生活ができなくなってしまいました。自分が拉致されると思うと耐え切れません。一日でも早く拉致問題が解決できるように、全国民で協力したいと思いました。

拉致が人権侵害と分かっていたら、拉致問題は起きないと思う。

拉致する側の人が、相手の立場に立って気持ちを考えたら、家族や大切な人たちの気持ちが分かるはずなのに、なぜそうしないのかが分かりません。このようなことが直らないと、世界が平和にならないと感じました。

四十年以上も娘と会えないのは、親としてとても辛いと思います。それでも戦い続ける早紀江さんがすごいと思い、家族の大切さを考えました。

もし私の家族が拉致されたら、すごく悲しいです。『めぐみ』を見て、一日一日を大切にして、自分が感じたり思ったりしていることを家族に伝えられるようにしたいと思います。

#### 【指導者の言葉】

アニメ『めぐみ』の視聴を通して、拉致被害者やその家族の心の痛みや思いに共感することができた。そこから、拉致問題の重大性を認識し、生命や安全を脅かす重大な人権問題であることにも気付けた。また、本アニメは無料で配信されているため、児童は自分のタブレットPCで繰り返し視聴することで、さらに理解を深めることができた。

# 五年社会「未来広告ジャパン！『どうする？これからの食料生産』」を見て

丸亀市立本島小学校 五年

指導者 吉岡 秀記

日本の食料について、日本でつくられたものは、外国産に比べ、値段が高いものが多いため、外国の安い食べ物、外国産や国産の食べ物の違いをあまり考えたことがなく、安さを第一に考えていました。そこで、国産の食べ物や、これからの食料生産について、「未来広告ジャパン」の動画から考えることにしました。

動画を見て、私が一番おどろいたことは、ある生産者のところでは、黒部和牛二千頭をじゅう業員たった十三人でお世話をしていることです。佐賀県で育てられている食用の黒毛和牛は、耳に付けている耳標と呼ばれる番号で飼育状況を全て管理されています。じゅう業員のメモには、何番の牛が何度の熱を出したかなど、牛の体調が詳しく書かれているそうです。それらの管理を十三人のじゅう業員だけで行っているのはとても大変だなと思えました。

ほかに、今回の動画を見て分かったことがあります。例えば、牛が食べる稲わらは、同じ県内の田んぼからもらっているということです。一年分の稲わらをゆずっても

らっているようすを見て、稲わらのロールの大きさにびっくりしました。他にも、牛のふんが、野菜や果物を育てるための畑の肥料として利用されていることを知りました。農家どうしが呼びかけ協力して農業を支えあっているそうです。そうすることで、地域全体の農業を元気にすることができると生産者の方がおっしゃっていたのを見て、とてもいいことだなと思いました。私は生産者の思いなどを考えたことがなかったので、映像を見てどんな気持ちで農業をしているかよく分かりました。

「未来広告ジャパン」の番組は、字まくがあるので、聞いたときに分からなかったところを字で見て分かるころがいいと思います。また、横には、あらずじが書かれているので、前の勉強のふり返りをするときによく見えます。普段見ることができない作業の様子などを知ることができるので、動画を見ることはとても好きです。

今回、私は、生産者の工夫や苦労を知ることができました。値段が少し高いこともなっとくです。これからは、国産の食べ物にも注目していきたいと思います。

## 【指導者の言葉】

自分たちの住んでいる地域には畜産業をしている農家がおらず、直接見学にいたり話を伺ったりする機会を設定できない状況にある。映像資料では、全国の様子を知ったり、何度も見返したりすることができるとても有効であるといえる。

# NH K for school

## 総合「スマホ・リアル・ストーリー」

### 『無料ゲームのはずが』を見て

三豊市立松崎小学校 四年  
指導者 教諭 前川 優斗

#### 【児童の感想】〈抜粋〉

課金という言葉を知らなかったけれど、この動画を見て、課金をしすぎることはかわいことだということがわかった。課金はやめられなくなくなってしまったらいけないからしないようにしたいし、我慢する気持ちをもちことも大事だと思った。

課金はかわいと思っていたけれど、動画を見て改めてかわさがわかった。絶対にしないようにしたい。課金を親に内緒ですると、親に迷惑がかかるし、自分もつらい思いをすと思う。また、子どもが二十歳とうそをついて課金をすることはいけないことだということがわかった。

はじめは、課金をしたり、家族のルールを少しやぶってしまったりしても大丈夫だと思っていたけれど、動画を見て、家族で決めたルールをきちんと守りたいと思った。

自分のお金だったら課金をしてもいいと思っていたけれど、自由に使うのではなく、きちんと親とルールを決めて、守らないといけないと思った。

ゲームをするときにもきちんと時間を守って使うようにしたい。もしも、間違えて課金をしてしまったときには、正直にお家の人に言うようにしたい。また、これから、もしお金がかかることが必要な場合には、必ずお家の人に相談するようにしたい。

#### 【指導者の言葉】

学級の多くの児童が、自分のスマホは持つてはいないものの、親のスマホを使ってゲームをしたり、インターネットに繋がっているゲームをしたりする経験をしている。その中で、課金というものがあることを知っている児童は一部であり、課金が原因で起きるトラブルについてはほとんど知らないのが現状であった。

そこで、NHK for schoolの総合「スマホ・リアル・ストーリー」の『無料ゲームのはずが』の動画を見せ、まず、問題点について話し合わせた。「課金をしないという家族との約束を守れなかったこと」「課金をやめられなかったこと」「二十歳とうそをついたこと」「親に課金したことを内緒にしていたこと」などの意見が出てきた。次に、どのように行動するべきだったのかを考えさせる中で、家族で話し合ったルールをきちんと守ることが大切だということに気付くことができた。

「スマホ・リアル・ストーリー」は、子どもたちが知らずに陥ってしまうような事例を分かりやすく伝えてくれる素晴らしい番組であった。